



第1号

「めぐみちゃんの まちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。

この一環として、西武新宿線田無駅南部エリアの植木生産地の特徴を活かした、市民と植木事業者の皆さんがふれあうイベント『**緑のアカデミー**』を7月1日(日)、岡部造園さんの敷地をお借りして開催しました。



事業の
ねらい

田無駅南部エリアの特徴である植木を活かした「緑のアカデミー」を開催し、市民が植木職人の技と緑にふれあう。

事業の
効果

市民が市内の植木生産地と技にふれ、理解を深めます。

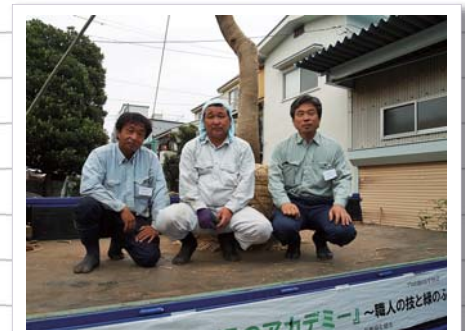
開会

田無駅南部地域は都市と郊外の間位置するという土地柄から、植木の栽培から造園まで手がける事業者が多いという特徴があります。今回のイベントは、市内の植木事業者でつくる「田無緑化組合」の組合員14人の協力のもと、2回の入替え制で行いました。事前に申込をした合計で約100人の市民が参加しました。



会場を提供していただいた岡部さんは、田無で11代続く農家の方です。岡部家の家紋が、田無小学校校章のモチーフになっているいわれ等、地域の歴史についてもお話してくださいました。第1回緑のアカデミーでは5種類の西東京市産の苗木を、オリジナルプレートの付いたポットに植えてもらい、皆さんに持ち帰ってもらいました。

植木「プロの技」デモンストレーション



田無緑化組合員の方に「根巻き」の職人の技の実演をしていただきました。実演に合わせて、桜井組合長から「根巻き」は樹木の移植の際に根鉢を保護するために必要であることや、「根回し」という言葉の語源は、木を移植する際に周囲をあらかじめ掘って細根の発生を促すこと等の興味深い解説をしていただきました。